

# アップグレードガイド

## Novell® ZENworks® 11

11

2011 年 1 月 5 日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2011 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 ZENworks 11 の変更点と新機能</b>	<b>9</b>
1.1 アセットインベントリ	9
1.2 バンドル管理	9
1.3 バンドルとポリシーの変更管理	10
1.4 Endpoint Security Management	12
1.5 一般的な機能強化	12
1.6 Intel AMT	14
1.7 場所の把握	14
1.8 Linux デバイスの管理	14
1.8.1 検出と展開	14
1.8.2 Linux オペレーティングシステムの展開	15
1.8.3 Linux ソフトウェアの配布	15
1.8.4 Linux サブスクリプション管理	16
1.8.5 Linux 環境設定管理	16
1.8.6 Linux インベントリサービス	16
1.8.7 Linux パッチ管理	16
1.8.8 ローカルユーザ管理	17
1.8.9 Novell Application Launcher (Linux 用)	17
1.9 パッチ管理	17
1.10 ポリシー管理	18
1.11 レポート機能	18
1.12 Dell サーバのサポート	19
1.13 ZENworks Configuration Management の旧バージョンから ZENworks 11 への更新	19
1.14 ZENworks Appliance	20
1.15 ZENworks マイグレーション	20
<b>2 ZENworks 11 へのプライマリサーバのアップグレード</b>	<b>21</b>
2.1 アップグレードで行われる処理の理解	21
2.2 アップグレード順序の理解	22
2.3 前提条件	22
2.3.1 管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件	22
2.3.2 管理ゾーンで後続のアップグレードを実行するための前提条件	24
2.4 プライマリサーバのアップグレード	25
2.4.1 GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード	25
2.4.2 コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード	30
2.5 ZENworks Reporting Server のアップグレード	32
2.5.1 同じプライマリサーバへの ZENworks Reporting Server のインストール	32
2.5.2 別のサーバへの ZENworks Reporting Server のインストール	33
2.6 既知の問題	33
2.7 トラブルシューティング	33
<b>3 ZENworks 11 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード</b>	<b>37</b>
3.1 サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするための前提条件	37
3.2 サテライトと管理対象デバイスのアップグレード	38

3.3	既知の制限事項 . . . . .	38
<b>4</b>	<b>ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード</b>	<b>39</b>
4.1	アップグレード前のタスク . . . . .	39
4.2	ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード . . . . .	41
4.3	アップグレード後のタスク . . . . .	43
<b>5</b>	<b>ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスの管理上の考慮事項</b>	<b>45</b>
5.1	ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスを管理するための ZENworks 11 サーバの準備 . . . . .	45
5.2	ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバールの作成と管理 . . .	46
5.2.1	ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバールの作成 . .	47
5.2.2	ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバールのバックアップ . . . . .	57
5.3	既知の制限事項 . . . . .	57

# このガイドについて

このガイドには、Novell® ZENworks® 11 で新しく強化された機能に関する情報と、このリリースへ正常にアップグレードする際に役立つ情報が記載されています。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 9 ページの第 1 章「ZENworks 11 の変更点と新機能」
- ◆ 21 ページの第 2 章「ZENworks 11 へのプライマリサーバのアップグレード」
- ◆ 37 ページの第 3 章「ZENworks 11 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード」
- ◆ 39 ページの第 4 章「ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード」
- ◆ 45 ページの第 5 章「ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスの管理上の考慮事項」

## 対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 11 には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。その他のマニュアルについては、[ZENworks 11 マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks11\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks11) を参照してください。





# ZENworks 11 の変更点と新機能

# 1

次の各セクションでは、Novell ZENworks 11 の新機能と拡張機能を説明します。

- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「アセットインベントリ」
- ◆ 9 ページのセクション 1.2 「バンドル管理」
- ◆ 10 ページのセクション 1.3 「バンドルとポリシーの変更管理」
- ◆ 12 ページのセクション 1.4 「Endpoint Security Management」
- ◆ 12 ページのセクション 1.5 「一般的な機能強化」
- ◆ 14 ページのセクション 1.6 「Intel AMT」
- ◆ 14 ページのセクション 1.7 「場所の把握」
- ◆ 14 ページのセクション 1.8 「Linux デバイスの管理」
- ◆ 17 ページのセクション 1.9 「パッチ管理」
- ◆ 18 ページのセクション 1.10 「ポリシー管理」
- ◆ 18 ページのセクション 1.11 「レポート機能」
- ◆ 19 ページのセクション 1.12 「Dell サーバのサポート」
- ◆ 19 ページのセクション 1.13 「ZENworks Configuration Management の旧バージョンから ZENworks 11 への更新」
- ◆ 20 ページのセクション 1.14 「ZENworks Appliance」
- ◆ 20 ページのセクション 1.15 「ZENworks マイグレーション」

## 1.1 アセットインベントリ

ZENworks 11 Asset Inventory には、次のような新機能または拡張機能があります。

- ◆ デバイスが Hyper-V 仮想化環境を提供する場合は、インベントリスキャンによって、ゲスト名、ゲストオペレーティングシステム、ゲストタイプなど、ゲスト仮想マシンの詳細を表示できます。
- ◆ Linux デバイスに IPMI (Intelligent Platform Management Interface) がインストールされている場合は、インベントリスキャンによって、IPMI の詳細を表示できます。
- ◆ 環境に配慮し、電力消費を低減するために、グリーン属性機能を使用すると、デバイスの接続先モニタのタイプをキャプチャして電源管理を改善できます。この情報は、ZENworks Reporting Server によって報告されます。

## 1.2 バンドル管理

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management 10.3.x で使用できたディレクティブバンドルとファイルバンドルは、適用できなくなりました。ディレクティブバンドルとファイルバンドルに固有のすべてのアクションは、Windows バンドルの使用によって作成できるようになりました。
- ◆ 既存のディレクティブバンドルとファイルバンドルは、Windows バンドルとして移行されます。

- ◆ プレブートバンドルについては、次のイメージバンドルフラグを設定すると、その設定に基づいてバンドルが適用され、イメージが復元されます。
  - ◆ イメージセーフデータからでなく、バンドルされたイメージからの IP アドレスを使用します
  - ◆ イメージセーフデータからでなく、バンドルされたイメージからの ID 情報を使用します

## 1.3 バンドルとポリシーの変更管理

ZENworks 11 では、バンドルとポリシーに関する新しい変更管理機能の導入により、IT サービスの中断を最小限にして、バンドルとポリシーを変更することができます。

バンドルやポリシーをサンドボックスとして作成できるようになりました。バンドルまたはポリシーの発行済みバージョンを変更することによっても、サンドボックスが作成されます。サンドボックスは、テストのフラグが立っているデバイスまたはユーザのみが使用できます。サンドボックスが使えるようになったので、テストデバイスでバンドルまたはポリシーに加えた変更をテストしてから、それらの変更を運用環境にロールアウトできます。テスト結果に満足な場合は、サンドボックスを発行し、不満足な場合はサンドボックスを元に戻すことによって変更を廃棄することができます。発行済みバージョンは、*非*テストフラグの立っているすべての割当済みデバイスおよびユーザで使用できます。この機能を利用することにより、ネットワーク内のすべてのデバイスが、常に、同じバージョンのバンドルまたはポリシーを受け取ることが保証されます。

バンドルおよびポリシーの変更管理をテストし、使用するには、次の重要事項を知っておく必要があります。

- ◆ サンドボックスは、次のいずれかの方法で作成できます。
  - ◆ バンドルとポリシーをサンドボックスとして作成する。
  - ◆ バンドルとポリシーの発行済みバージョンを編集して、サンドボックスを作成する。
  - ◆ バンドルとポリシーの古いバージョンからサンドボックスを作成する。
- ◆ ポリシーのサンドボックスバージョンは、新しいポリシーとして発行できます。
- ◆ バンドルのサンドボックスバージョンは、バンドルの新しい発行済みバージョンまたは新しいバンドルのいずれかとして発行できます。
- ◆ バンドルとその依存バンドルは、新しいバージョンとして発行できます。
- ◆ バンドルは新しいバンドルとして発行し、依存バンドルは新しいバージョンとして発行できます。
- ◆ バンドルとその依存バンドルは、新しいバンドルとして発行できます。
- ◆ 複数のバンドルをバンドルの新バージョンとして発行し、複数のポリシーをポリシーの新規バージョンとして発行できます。
- ◆ 次のバンドル権限とポリシー権限を利用できます。
  - ◆ **作成者権限**：バンドルまたはポリシーを変更する（そして、変更内容をテスト環境でテストできる）ために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
  - ◆ **発行権限**：テストされた変更を運用環境で発行するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。  
発行権限を持つ管理者には、作成者権限も与えられます。

バンドルとポリシーの作成 / 削除権限および変更権限は、発行権限と作成者権限で置き換えられました。

- ◆ ZENworks コントロールセンターで、Windows バンドルのサンドボックスバージョン用アドオンイメージの作成を有効にすることができます。このオプションは、Windows バンドルの発行済みバージョンにアドオンイメージがあり、そのバンドルのサンドボックスバージョンに新しいアドオンイメージを作成する場合のみ有効です。

サンドボックスにアドオンイメージの作成を有効にしない場合は、バンドルのサンドボックスバージョンにアドオンイメージが自動的に作成されることはありません。また、後からバンドルのアドオンイメージを手動で作成することもできません。

バンドルの複数の発行済みバージョンを作成できる場合でも、アドオンイメージは、バンドルの最新の発行済みバージョンとそのサンドボックスバージョンにのみ使用できます。新しい発行済みバージョンを作成するときに、既存の発行済みバンドルのアドオンイメージは削除されます。

- ◆ ZENworks コントロールセンターでバンドルまたはポリシーをクリックすると、そのバンドルまたはポリシーの最新バージョンが表示されます。サンドボックスバージョンが存在する場合は、サンドボックスが表示されますが、そうでない場合は、バンドルまたはポリシーの発行済みバージョンが表示されます。
- ◆ バンドルのページとポリシーのページにある [表示バージョン] オプションで、バンドルとポリシーのすべてのバージョンのリストを表示できます。
- ◆ バンドルまたはポリシーの発行済みバージョンは直接編集できます。発行済みバージョンを編集すると、サンドボックスが作成されます。ただし、バンドルとポリシーの旧バージョンは表示専用です。旧バージョンのバンドルやポリシーを編集するには、編集するバージョンを選択してから、[サンドボックスの作成] をクリックして、選択したバージョンのサンドボックスを作成する必要があります。これでそのサンドボックスを編集することができます。
- ◆ バンドルまたはポリシーの旧バージョンに戻りたい場合は、旧バージョンのサンドボックスを作成して、それを新しいバージョンとして発行します。
- ◆ バンドルまたはポリシーの旧バージョンをデバイスまたはユーザに割り当てたい場合は、旧バージョンのサンドボックスを作成して、それを新しいバージョンとして発行します。
- ◆ バンドルとポリシーには複数のバージョンを存在させることができます。ただし、どの時点でも、1つのバンドルとポリシーに対して1つのサンドボックスしか存在できません。
- ◆ 特定のバージョンが不要になった場合は、そのバージョンを削除できます。
- ◆ デバイスとユーザにテストのフラグを立てると、デバイスとユーザはバンドルまたはポリシーを割り当てられたときにサンドボックスを受け取ることができます (サンドボックスが存在する場合)。
- ◆ バンドルのプライマリサーバ複製設定とサテライトサーバ複製設定は、バンドルの各バージョンで共通です。設定は、どのバージョンのバンドルからでも編集できます。バンドルの発行済みバージョンのプライマリサーバ複製設定とサテライトサーバ複製設定を、バンドルのサンドボックスバージョンに適用したい場合は、バンドルの [サ

ンドボックス設定] ページの [サンドボックスコンテンツの複製ステータス] パネルで、[サンドボックスのコンテンツをコンテンツサーバに同期させます] を選択します。

- ◆ ポリシーのプライマリサーバ複製設定とサテライトサーバ複製設定は、ポリシーの各バージョンに渡って共通です。設定は、どのバージョンのポリシーからでも編集できます。ポリシーの発行済みバージョンのプライマリサーバ複製設定とサテライトサーバ複製設定を、ポリシーのサンドボックスバージョンに適用したい場合は、ポリシーの [サンドボックス設定] ページの [サンドボックスコンテンツの複製ステータス] パネルで、[サンドボックスのコンテンツをコンテンツサーバに同期させます] を選択します。

## 1.4 Endpoint Security Management

ZENworks Endpoint Security Management は、ZENworks Configuration Management、ZENworks Asset Management、および ZENworks Patch Management と同じ ZENworks インフラストラクチャ (ZENworks コントロールセンター、サーバー、およびエージェント) を使用して、ZENworks 11 ファミリの製品に統合されています。

今日のコンピューティング環境では、新しいデータの大半がエンドポイントデバイス上に存在しています。これらのデバイスはモバイルであり、常に境界セキュリティに保護されているわけではありません。ラップトップ、スマートフォン、MP3 プレーヤ、サムドライブなどのポータブルエンドポイントデバイスは特に損失や盗難の危険性が高くなっています。エンドポイントデバイスは、ワイヤレス接続を介して安全性に問題があるネットワークにアクセスすることもあります。

ZENworks Endpoint Security Management は、管理対象デバイスのセキュリティポリシーの中央管理を提供することによって、エンドポイントセキュリティを簡素化します。リムーバブルストレージデバイス、ワイヤレスネットワーク、およびアプリケーションに対するデバイスのアクセスを制御できます。さらに、暗号化とファイアウォールの実施 (ポート、プロトコル、アクセス制御リスト) による安全なネットワーク通信の使用によって、データを安全に保護することができます。エンドポイントデバイスのセキュリティは、そのデバイスの場所に基づいて変更できます。

ZENworks Endpoint Security Management の使用については、次のガイドを参照してください。

- ◆ [ZENworks 11 管理クイックスタート](#)
- ◆ [ZENworks 11 Endpoint セキュリティポリシーリファレンス](#)

## 1.5 一般的な機能強化


- ◆ 次のようにルック & フィールが改善されました。
  - ◆ ZENworks アイコンがに変更されました。
  - ◆ ZENworks コントロールセンターのログイン画面が変更されました。

図 1-1 ZENworks コントロールセンターのログインページ



- ◆ ZENworks コントロールセンター内のナビゲーションタブを表すアイコンが変更されました。
- ◆ ZENworks コントロールセンターの背景色が黒とグレーになりました。
- ◆ ZENworks 11 では、デバイスをゾーンに実際に登録する前に、ゾーン内にデバイスオブジェクトを作成できます。この機能によって、所定のデバイスの変数およびその他の設定をすべて事前設定してから、デバイスをブートすることができます。次に、デバイスがデバイスの MAC アドレスまたはシリアル番号を使用して必要な調整を行います。
- ◆ ZENworks 11 以降では、システム更新エンタイトルメントをアクティブ化して、タイムリーに Novell ZENworks 11 ソフトウェアへの更新を取得する必要があります。システム更新エンタイトルメントが設定されていない場合は、新しい更新を受け取ることはできません。  
システム更新エンタイトルメントをアクティブにする方法の詳細については、『[ZENworks 11 システム管理リファレンス](#)』の「[ZENworks システム更新](#)」を参照してください。
- ◆ ZENworks 11 では、管理者グループを作成できます。管理者グループを作成するには、次の手順を実行します。
  1. ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
  2. [管理者] パネルで、[新規] > [管理者グループ] の順にクリックして、[新しい管理者グループの追加] ダイアログボックスを表示します。  
さまざまなオプションの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

## 1.6 Intel AMT

ZENworks 11 では、ZENworks コントロールセンターで帯域外の方法で、Intel AMT 対応デバイスをプロビジョニングし、それらの電力状態を管理できます。

## 1.7 場所の把握

ZENworks 11 では、ZENworks Adaptive Agent が管理対象デバイス上でなにを使用可能にするか、なにを強制するかを決定するための場所を設定することができます。これで、ユーザが頻繁に旅行する移動性の高い従業員であるか、オフィスの事務員であるか、または在宅勤務員であるかに関わらず、そのユーザを正しい ZENworks サーバに接続し、正しいアプリケーションを使用可能にし、適切なセキュリティポリシーを適用することで、デバイスをその現在のネットワーク環境内で保護することができます。

場所の詳細については、『ZENworks 11 システム管理リファレンス』の「[Location Awareness](#)」を参照してください。

## 1.8 Linux デバイスの管理

ZENworks 11 では、Linux デバイスを管理できます。詳細については、次の各セクションを参照してください。

- ◆ [14 ページのセクション 1.8.1 「検出と展開」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 1.8.2 「Linux オペレーティングシステムの展開」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 1.8.3 「Linux ソフトウェアの配布」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 1.8.4 「Linux サブスクリプション管理」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 1.8.5 「Linux 環境設定管理」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 1.8.6 「Linux インベントリサービス」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 1.8.7 「Linux パッチ管理」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 1.8.8 「ローカルユーザ管理」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 1.8.9 「Novell Application Launcher \(Linux 用\)」](#)

### 1.8.1 検出と展開

ZENworks 11 での検出と展開では、次のタスクを Linux デバイスで実行できます。

- ◆ Linux デバイスを検出します。
- ◆ ZENworks Adaptive Agent を Linux デバイスに展開します。

ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンレベルで選択された機能とともに展開します。これらの機能は、ZENworks コントロールセンターを介した展開の前と後でカスタマイズできます。

- ◆ プライマリサーバの代わりに Linux プロキシを使用して、Linux デバイスを検出し、それらのデバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開します。
- ◆ YaST アドオンと YUM ユーティリティを使用して、SLES(SUSE Linux Enterprise) デバイスと RHEL(Red Hat Enterprise Linux) デバイスに、ZENworks Adaptive Agent をインストールします。これらのユーティリティによってインストールしたエージェントは、YaST または YUM のリポジトリとして使用される管理ゾーン内の ZENworks サーバに自動的に登録されます。

## 1.8.2 Linux オペレーティングシステムの展開

ZENworks 11 では、複数の方法によって、Linux オペレーティングシステムをワークステーションとサーバに配布できます。

- ◆ **AutoYaST:** ZENworks 11 には、オペレーティングシステムとともに提供される AutoYaST 展開方法を使用して、SUSE Linux Enterprise 配布パッケージを展開できる新しいプレブートバンドルアクションが用意されています。
- ◆ **Kickstart:** ZENworks 11 には、オペレーティングシステムとともに提供される Kickstart 展開方法を使用して、RedHat と VMware ESX を展開できる新しいプレブートバンドルアクションが用意されています。
- ◆ **イメージング:** ZENworks は、デバイスに Linux を配布するために使用できるファイルベースのイメージングソリューションも提供しています。この方法では、特殊な SUSE Linux Enterprise 配布パッケージを使用して、デバイスがプレブート状態のときに、デバイスに関連付けられているイメージングタスクを実行します。この特殊な配布パッケージを使用すると、Windows イメージと Linux イメージを配布し、Linux スクリプトを実行できます。ZENworks 11 でも、LVM でパーティション分割されたディスクに対してこれらのイメージング操作を実行する機能がサポートされています。

## 1.8.3 Linux ソフトウェアの配布

ZENworks 11 では、RPM ベースのソフトウェアを効率的に配布できます。Linux は ZENworks 11 のバンドル管理フレームワークを使用するので、追加環境設定タスクを実行し、追加のファイルとディレクトリを展開し、スクリプトを実行するなど、多数のタスクを Linux バンドルの一部として実行することができます。

ZENworks 11 では、さまざまな配布方法を利用できます。

- ◆ Linux バンドルを使用して、パッケージとアクションのセットをプッシュまたはプルできます。
- ◆ Linux 依存バンドルを使用して、依存性を解決するためのパッケージセットを提供できます。

ZENworks 11 では、管理対象デバイスの登録先リポジトリを管理することもできます。管理対象デバイスを登録する環境に他の YUM リポジトリまたは YaST リポジトリがある場合は、ZENworks コントロールセンターからそのリポジトリに自動的に登録するように、管理対象デバイスを設定できます。

## 1.8.4 Linux サブスクリプション管理

ZENworks 11 では、Novell 更新リポジトリ、ZENworks Linux 管理リポジトリ、RedHat ネットワーク、および YUM リポジトリへのサブスクリプションを簡単にセットアップできます。プラットフォームを選択し、サブスクリプションするサービスを更新し、変更の有無を定期的にチェックするようにサブスクリプションをスケジュールできます。

## 1.8.5 Linux 環境設定管理

ZENworks 11 では、次の新しい Linux 環境設定ポリシーを導入しています。

- ◆ パペットポリシーでは、パペットコミュニティによって開発されたすべてのマニフェストとモジュールを活用できます。これによって、Apache や Tomcat などのアプリケーションの変更をさまざまなサーバに素早く容易に配布できます。
- ◆ 外部サービスポリシーでは、YUM リポジトリ、ZYPP リポジトリ、および MOUNT リポジトリのためのサービスを設定できます。これによって、これらのリポジトリから管理対象デバイスに、ソフトウェアのパッケージまたは更新をダウンロードし、インストールできます。

ZENworks 11 では、バンドルとポリシーに関する新しい変更管理機能の導入により、IT サービスの中断を最小限にして、バンドルとポリシーを変更することができます。変更管理の詳細については、[10 ページの「バンドルとポリシーの変更管理」](#)を参照してください。

## 1.8.6 Linux インベントリサービス

ZENworks 11 では、ハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を Linux および Windows の各管理対象デバイスから収集するように設定できます。ソフトウェアスキャンでは、デバイスに現在インストールされているすべての RPM が報告されます。ハードウェアスキャンでは、すべてのハードウェアコンポーネントが報告されます。これらのサービスは ZENworks フレームワーク上に構築されるので、履歴追跡機能を利用して、いつパッケージとハードウェアが変更されたかを知ることができます。

ZENworks 11 には、ZENworks Reporting Services というエンタープライズレベルのレポートングツールがあり、このツールを使用すると、簡単なカスタムレポートや複雑なカスタムレポートを作成して、インベントリレポートングのニーズを満たすことができます。

## 1.8.7 Linux パッチ管理

ZENworks 11 Patch Management では、ZENworks Patch Management のサブスクリプション、レポートング、および修正の各サービスを SUSE Linux デバイスと RedHat Linux デバイスに拡張します。これで、Novell と RedHat によって公表されたすべてのパッチ脆弱性のクイックビューと環境内に現在存在している脆弱性のクイックビューを取得することができます。特定された脆弱性は、Novell Patch Management サブスクリプションからパッチを展開して、素早く、簡単に修正できます。

---

**注：**ZENworks Patch Management では年次サブスクリプションが必要です。このサブスクリプションは、環境内で特定された脆弱性の修正に必要なパッチ署名とパッチを提供します。

---



## 1.8.8 ローカルユーザ管理

Linux 管理対象デバイスで、ZENworks 特権 ( 表示、設定、またはスーパーユーザ ) をローカルユーザに割り当てることを選択できるようになりました。ローカルユーザとそれらの特権のリストを、他の管理対象デバイスで再使用するために、xml ファイルにエクスポートすることもできます。

## 1.8.9 Novell Application Launcher (Linux 用 )

Novell Application Launcher (ZENworks Window) を使用して、Linux 管理対象デバイス上でバンドルにアクセスできるようになりました。これは、バンドルのアクセス方法として、ZENworks アイコンの使用に追加されています。

Linux 管理対象デバイスに関して Novell Application Launcher を起動する方法の詳細については、『[Novell ZENworks 11 Adaptive Agent ガイド](#)』の「[バンドルの起動](#)」を参照してください。

## 1.9 パッチ管理

ZENworks 11 Patch Management では、次の新機能や強化機能が提供されます。

- ◆ SUSE Linux デバイスと Red Hat Linux デバイスに対する ZENworks Patch Management のサブスクリプションサービス、レポートサービス、および修正サービスのサポート。

詳細については、[16 ページのセクション 1.8.7 「Linux パッチ管理」](#)を参照してください。

- ◆ 64 ビットサーバのサポート。
- ◆ ZENworks Patch Management によって新規パッチが検出されたとき、電子メールでユーザに通知します。
- ◆ ダッシュボードの更新スケジュールを設定します。
- ◆ 特定のオペレーティングシステムのパッチをダウンロードするように、サブスクリプションダウンロードオプションを設定します。
- ◆ ZENworks Configuration Management と ZENworks Patch Management の両方のライセンス状態がアクティブの場合は、パッチウィザードを使用して、カスタムパッチを作成し、作成したパッチをパッチ管理システムに追加します。
- ◆ パッチ管理システムからパッチを削除します。
- ◆ パッチの検索時に、オペレーティングシステムに基づいて結果をフィルタします。
- ◆ パッチ管理では、使用可能なオペレーティングシステムをすべてダウンロードすることはなくなりました。インストールされているエージェントに基づいて、必要なパッチだけをダウンロードします。この機能強化により、顧客のサーバのディスクスペースが節約され、ZENworks サーバに登録さえしていないオペレーティングシステムのためのファイルダウンロードに関して、帯域幅を最適に使用することができます。

場所の詳細については、『[ZENworks 11 パッチ管理リファレンス](#)』を参照してください。

## 1.10 ポリシー管理

ZENworks 11 は、1 つの製品に固有か、または複数の製品に共通なポリシーを提供します。環境設定管理、エンドポイントセキュリティ管理、アセット管理などの製品に使用できるポリシーは、アクティブにする製品に依存します。

次のポリシーは、環境設定管理に固有です。

- ◆ ブラウザブックマークポリシー
- ◆ ローカルファイル権限ポリシー 電源管理ポリシー プリンタポリシー リモート管理ポリシー ローミングプロファイルポリシー SNMP ポリシー 外部サービスポリシー
- ◆ パペットポリシー

次のポリシーは、エンドポイントセキュリティ管理に固有です。

- ◆ アプリケーション制御ポリシー
- ◆ 通信ハードウェアポリシー データ暗号化ポリシー ファイアウォールポリシー 場所割り当てポリシー セキュリティ設定ポリシー ストレージデバイスコントロールポリシー USB 接続性ポリシー VPN 実施ポリシー
- ◆ Wi-Fi ポリシー

次のポリシーは、環境設定管理とエンドポイントセキュリティ管理に共通です。

- ◆ Windows グループポリシー
- ◆ ダイナミックローカルユーザポリシー

次のポリシーは、環境設定管理、エンドポイントセキュリティ管理、アセット管理に共通です。

- ◆ ZENworks Explore 環境設定管理ポリシー

## 1.11 レポート機能

ZENworks 11 には、次の新しいレポーティング機能があります。

- ◆ ポリシーの管理、実施、およびコンプライアンスに関するエンドポイントセキュリティのカスタムレポートと事前定義レポートを生成します。
- ◆ ユーザおよびデバイスに関するポリシー実施ステータスとアプリケーション展開の詳細を報告します。
- ◆ 次の電源管理の詳細を報告します。
  - ◆ ハードウェアとオペレーティングシステムの機能
  - ◆ ポリシーの有効性
  - ◆ 有効性の追跡とスケジューリングのための帯域外電源管理アクション

ZENworks レポーティングには、次の新しい事前定義レポートが組み込まれました。

- ◆ Linux サブスクリプションセッションの詳細
- ◆ Linux サブスクリプション
- ◆ 管理対象デバイスシステム更新ステータス - Windows

ZENworks 11 のアップグレード方法の詳細については、『[ZENworks 11 システムレポーティングリファレンス](#)』を参照してください。

## 1.12 Dell サーバのサポート

ZENworks 11 では、DellDTK Configuration バンドルを使用して、Dell サーバ上でハードウェアとシステムの設定 (BIOS、BMC、DRAC、および RAID の設定を含む) を更新および設定できます。

サーバがブートすると、DellDTK Configuration バンドルがサーバ上で実行され、次に、オペレーティングシステムがブートします。DellDTK Configuration バンドルは、サーバのプロビジョニングで使用されて、次のタスクを実行します。

- ◆ スクリプトとファイルを使用して、BIOS、BMC、RAID、および DRAC を設定します。
- ◆ Dell ユーティリティパーティションをインストールします。
- ◆ 既存の Dell ユーティリティパーティションを上書きします。
- ◆ 既存の Dell ユーティリティパーティション内のファイルを更新します。
- ◆ Dell デバイスの更新後、別のプレブートバンドルを実行して、オペレーティングシステムをインストールします。

## 1.13 ZENworks Configuration Management の旧バージョンから ZENworks 11 への更新

次のものは、ZENworks 11 に直接更新できます。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3) または Update for ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.1) がインストールされているプライマリサーバ  
詳細については、[21 ページの第 2 章「ZENworks 11 へのプライマリサーバのアップグレード」](#)を参照してください。
- ◆ 次のバージョンのいずれかがインストールされている管理対象デバイスとサテライト
  - ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2)
  - ◆ Update for ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2.1)
  - ◆ Update for ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2.2)
  - ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3)
  - ◆ Update for ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.1)

詳細については、[37 ページの第 3 章「ZENworks 11 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード」](#)を参照してください。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance  
詳細については、[39 ページの第 4 章「ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード」](#)『[ZENworks 11 システムレポーティングリファレンス](#)』を参照してください。

## 1.14 ZENworks Appliance

サポートされている仮想インフラストラクチャに展開できる仮想アプライアンスとして、ZENworks Virtual Appliance 11 を利用できるようになりました。この仮想アプライアンスは、カスタマイズされた SUSE Linux Enterprise Server 11 JeOS (SLES 11 SP1) 上で構築され、ZENworks 11 サーバとともに事前にインストールされます。

## 1.15 ZENworks マイグレーション

- ◆ ZENworks 7.2 Linux Management (IR2 以上) を使用している場合は、ZENworks Linux Management Migration Utility を使用して、ZENworks Configuration Management に容易にデータを移行できます。
- ◆ ZENworks Configuration Management、ZENworks Linux Management、および ZENworks Asset Management 用の各 ZENworks Migration Utility をインストールするために必要な実行可能ファイルが、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/\)](http://download.novell.com/) から利用できるようになり、ZENworks 11 ビルドに含まれなくなりました。

Web ブラウザを使用して、次のいずれかの場所の適当な場所に Migration Utility をダウンロードできます。

- ◆ **[ZENworks ダウンロード] ページ** : ZENworks ダウンロードページで ([http://zenworks\\_primary\\_server\\_IP\\_address/zenworks-setup/?pageId=tools](http://zenworks_primary_server_IP_address/zenworks-setup/?pageId=tools))、マイグレーションユーティリティの実行ファイル (ZENworks Configuration Management の場合は ZENmigration.exe、ZENworks Asset Management Migration の場合は ZAMmigration.exe、ZENworks Linux Management Migration の場合は zlmmigration.zip) をクリックすると、ユーティリティをダウンロードできる Novell ダウンロードサイトのページに自動的にリダイレクトされます。
- ◆ **Novell ダウンロードサイト** : [Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/\)](http://download.novell.com/) に移動し、ダウンロードするマイグレーションユーティリティを検索します。
- ◆ ZENworks Configuration Management Migration では、アプリケーションまたはポリシーをサンドボックスとして移行できます。依存アプリケーションもサンドボックスとして移行できます。

詳細については、『[ZENworks 11 Configuration Management マイグレーションガイド](#)』の「[マイグレーションオプション](#)」を参照してください。

# ZENworks 11 へのプライマリサーバ のアップグレード

# 2

ZENworks 11 インストールメディアを使用すると、ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3) または Update for ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.1) がインストールされているプライマリサーバを ZENworks 11 に直接アップグレードできます。

次の各セクションでは、ZENworks 11 へのアップグレードについて説明します。

- [21 ページのセクション 2.1 「アップグレードで行われる処理の理解」](#)
- [22 ページのセクション 2.2 「アップグレード順序の理解」](#)
- [22 ページのセクション 2.3 「前提条件」](#)
- [25 ページのセクション 2.4 「プライマリサーバのアップグレード」](#)
- [32 ページのセクション 2.5 「ZENworks Reporting Server のアップグレード」](#)
- [33 ページのセクション 2.6 「既知の問題」](#)
- [33 ページのセクション 2.7 「トラブルシューティング」](#)

## 2.1 アップグレードで行われる処理の理解

- Configuration Management、Asset Management、Asset Inventory、および Patch Management を含む、プライマリサーバ上の ZENworks 10 Configuration Management コンポーネントをすべてアップグレードする。
- ZENworks 11 Endpoint Security Management をプライマリサーバにインストールします。
- ZENworks データベースをアップグレードします。これは、最初のサーバのアップグレード時に行われます。
- 最初のサーバを ZENworks 11 にアップグレードすると、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x のサテライトおよび管理対象デバイスの ZENworks 11 へのアップグレードにシステム更新を使用できるようになります。  
サテライトと管理対象デバイスを ZENworks 11 にアップグレードする方法の詳細については、[37 ページの第 3 章「ZENworks 11 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード」](#)を参照してください。
- 管理ゾーンレベルでのみ設定された最近接サーバルールを移行します。これらのルールは、ルールロジックに従って、場所またはネットワーク環境として ZENworks 11 に移行されます。  
デバイスおよびデバイスフォルダレベルで設定された最近接サーバルールは移行されません。
- バンドルおよびポリシーの作成 / 削除権限と変更権限を、それぞれ発行権限と作成者権限として変換します。
- 既存のファイルバンドルとディレクティブバンドルを Windows バンドルに変換します。

Widows バンドルは、ファイルバンドルとディレクティブバンドルによってサポートされている (アクションカテゴリを除く) すべてのカテゴリをサポートします。

たとえば、パーソナリティの保存カテゴリを含むディレクティブバンドルは、パーソナリティの保存カテゴリを持つ Windows バンドルとして移行されますが、アクションカテゴリを含むディレクティブバンドルは、空のカテゴリを持つ Windows バンドルとして移行されます。

## 2.2 アップグレード順序の理解

プライマリサーバの ZENworks Configuration Management 10.3.x から ZENworks 11 へのアップグレードを計画する際には、次のガイドラインを考慮に入れる必要があります。

- 管理ゾーンのプライマリサーバは、任意の順序でアップグレードできます。
- ZENworks 11 アップグレードプログラムでは、そのプログラムを実行するサーバしかアップグレードできません。
- 管理ゾーンで初めてアップグレードを実行する場合、プライマリサーバをアップグレードする ZENworks 11 アップグレードプログラムのインスタンスは、1 つしか実行できません。その後は、複数のプライマリサーバで並行してアップグレードプログラムを実行し、それらのサーバをアップグレードできます。
- ゾーン内のすべてのプライマリサーバを短期間にアップグレードする必要があります。
- 各サーバのアップグレード後、ZENworks サービスがプライマリサーバで開始されます。最初のプライマリサーバをアップグレードすると ZENworks データベースもアップグレードされるので、アップグレードした他のプライマリサーバが、アップグレード済みデータベースおよび他のアップグレード済み管理対象デバイスと通信できます。

## 2.3 前提条件

- [22 ページのセクション 2.3.1「管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件」](#)
- [24 ページのセクション 2.3.2「管理ゾーンで後続のアップグレードを実行するための前提条件」](#)

### 2.3.1 管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件

ZENworks Configuration Management 10.3.x から ZENworks 11 にプライマリサーバをアップグレードするため、管理ゾーンで最初に ZENworks 11 アップグレードを実行することを選択した場合は、アップグレードプログラムの実行前に、次のタスクを完了する必要があります。

- ZENworks 11 にアップグレードしたい ZENworks Configuration Management 10.3.x プライマリサーバが ZENworks 11 のシステム要件をすべて満たしているか確認します。

詳細については、『[ZENworks 11 インストールガイド](#)』の「[プライマリサーバ要件](#)」を参照してください。

- ZENworks データベースをバックアップします。

- ◆ データベーススキーマが正しいかどうか、ZENworks 11 インストールメディアにバンドルされている ZENworks 診断センターツールを使用して確認します。ツールは、Linux プライマリサーバの場合は /Common/tools/zdc/zdc\_zen11、Windows プライマリサーバの場合は \common\tools\zdc\zdc\_zen11.bat で入手できます。

---

**重要：**インストールメディアにある ZENworks 診断センターツールは、ZENworks 11 へのアップグレードの前にデータベーススキーマを検証するためにだけ使用します。このツールは、ゾーン内の最初のプライマリサーバをアップグレードするときだけ実行してください。ZENworks 11 にアップグレードした後でプライマリサーバと管理ゾーンのヘルスを検証する場合は、ZENworks 11 の ZENworks コントロールセンターから ZENworks 診断センターをダウンロードして使用します。詳細については、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「ZENworks 診断センター」を参照してください。

---

- ◆ ZENworks データベースとの接続をすべて終了する。
- ◆ アップグレード中にデータベースが開いたままの状態になるのを防ぐため、アップグレード対象でないプライマリサーバ上の ZENworks サービスをすべて停止する。  
最初のサーバをアップグレードすると、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x のサテライトと管理対象デバイスの ZENworks 11 へのアップグレードに、システム更新を使用できるようになります。これは、システム更新機能を使用して行うことができます。システム更新で更新された他の管理対象デバイスが、まだ更新されていないプライマリサーバに接続しないようにするには、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバで ZENworks サービスが停止される必要があります。
- ◆ データベースをホストしているサーバが、データベースサービスがアクティブな状態で実行されていることを確認します。
- ◆ (条件付き)64ビット Windows Server 2003/2008 または Windows Server 2003/2008 R2 のデバイス上で、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x を ZENworks 11 にアップグレードする場合、そのデバイスに、Microsoft .NET 3.5 SP1 フレームワークとそのすべての最新アップデートがインストールされている必要があります。それらのインストールについては、アップグレードプログラムの実行前にするか、アップグレード中にするか、選択することができます。
- ◆ Windows プライマリサーバに、Windows Installer 4.5 以上がインストールされ、実行中であることを確認します。
- ◆ ZENworks Endpoint Security Management のクライアントがプライマリサーバにインストールされていないことを確認します。サーバにクライアントがインストールされている場合は、ZENworks 11 にサーバをアップグレードする前に、クライアントをアンインストールする必要があります。
- ◆ ゾーンに ZENworks Reporting Server をインストールしている場合は、セクション 24 ページの「ZENworks Reporting Server をアップグレードするための前提条件」に進みます。
- ◆ ZENworks アップグレードソフトウェアを ISO イメージのダウンロードとして入手した場合、次のいずれかを実行してアップグレード DVD を作成します。
  - ◆ 24 ページの「Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」
  - ◆ 24 ページの「Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」



## Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks 11 アップグレード ISO イメージを [Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/\)](http://download.novell.com/) から Windows デバイスの一時保管場所にダウンロードします。
- 2 ISO イメージを DVD に記録します。

## Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks 11 アップグレード ISO イメージを [Novell ダウンロード Web サイト \(http://www.novell.com/\)](http://www.novell.com/) から一時的に Linux デバイスの適当な場所にダウンロードします。
- 2 次のコマンドを使用して ISO イメージをマウントします。

```
mount -o loop /tempfolderpath/isoimagename.iso mountpoint
```

*tempfolderpath* を一時フォルダへのパスと置き換えて、*isoimagename* を ZENworks ISO ファイル名と置き換え、*mountpoint* をイメージをマウントするファイルシステムの場所へのパスと置き換えます。*mountpoint* によって指定されたパスはすでに存在している必要があります。

たとえば、次のようにします。

```
mount -o loop /zcm11/ZCM11upgr.iso /zcm11/upgrade
```

- 3 ISO イメージを DVD に記録します。

## ZENworks Reporting Server をアップグレードするための前提条件

- 1 `zman report-save` コマンドの実行により、レポートとレポートのデータをバックアップします。

詳細については、『[ZENworks 11 コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[レポートコマンド](#)」を参照してください。

## 2.3.2 管理ゾーンで後続のアップグレードを実行するための前提条件

管理ゾーンで最初の ZENworks 11 アップグレードの実行に成功したら、ゾーン内の複数のプライマリサーバで並行してアップグレードプログラムを実行し、それらのサーバをアップグレードできます。ZENworks 11 アップグレードを実行する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- ◆ ZENworks Configuration Management 10.3.x から ZENworks 11 にアップグレードしたいプライマリサーバが ZENworks 11 のシステム要件を満たしていることを確認します。

詳細については、『[ZENworks 11 インストールガイド](#)』の「[プライマリサーバ要件](#)」を参照してください。

- ◆ データベースをホストしているサーバが、データベースサービスがアクティブな状態で実行されていることを確認します。
- ◆ (条件付き) 64 ビット Windows Server 2003/2008 または Windows Server 2003/2008 R2 のデバイス上で、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x を ZENworks 11 にアップグレードする場合、そのデバイスに、Microsoft .NET 3.5 SP1 フレームワークとそのすべての最新アップデートがインストールされている必要があります。それらのインストールについては、アップグレードプログラムの実行前にするか、アップグレード中にするか、選択することができます。



- Windows プライマリサーバに、Windows Installer 4.5 以上がインストールされ、実行中であることを確認します。
- ZENworks Endpoint Security Management のクライアントがプライマリサーバにインストールされていないことを確認します。サーバにクライアントがインストールされている場合は、ZENworks 11 にサーバをアップグレードする前に、クライアントをアンインストールする必要があります。

## 2.4 プライマリサーバのアップグレード

アップグレードには、グラフィックユーザインタフェース (GUI) プログラムまたはコマンドライン (Linux のみ) を使用できます。

- [25 ページのセクション 2.4.1「GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード」](#)
- [30 ページのセクション 2.4.2「コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード」](#)

---

**重要:** プライマリサーバの ZENworks 11 へのアップグレードには ZENworks システム更新を使用しないでください。

---

### 2.4.1 GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード

ZENworks Configuration Management 10.3.x から ZENworks 11 にアップグレードしたいプライマリサーバで、次の手順を実行します。

- 1 [22 ページのセクション 2.3「前提条件」](#) で説明されているアップグレードの前提条件を満たしていることを確認します。
- 2 次の手順で、ZENworks 11 アップグレードプログラムを起動します。
  - **Linux:** Linux 端末で、ZENworks 11 インストールメディアのルートまでブラウズし、`setup.sh` コマンドを入力します。
  - **Windows:** 次のいずれかの操作を行います。
    - ZENworks 11 インストールメディアのルートまでブラウズし、`setup.exe` をダブルクリックします。
    - DOS ウィンドウを開き、ZENworks 11 インストールメディアのルートまでブラウズし、`setup.exe` コマンドを入力します。
- 3 アップグレード中に、アップグレードデータの詳細を理解する必要がある場合は、[27 ページの表 2-1「インストール情報」](#)に記載されている情報を参照してください。  
GUI アップグレードを使用している場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして同様の情報を参照することもできます。

**4 Windows デバイスで次のいずれかを実行します：**

- 自動的に再起動するように選択した場合は (アップグレード時に [はい、システムを再起動します] オプションを選択した場合。30 ページの「[サーバの再起動 \(Windows の場合のみ\)](#)」参照)、起動プロセスが完了してサービスが開始したら、[ステップ 6](#)に進みます。
- 手動で再起動するように選択した場合は (アップグレード時に [いいえ、システムを後で手動で再起動します] オプションを選択した場合。30 ページの「[サーバの再起動 \(Windows の場合のみ\)](#)」参照)、アップグレードが完了してサービスが開始するまで待機し、[ステップ 5](#)で確認する必要があります。

**5 アップグレードが完了して ZENworks サービスが再開されたら、次のいずれかを行って、ZENworks 11) が実行されていることを確認します。**

• **GUI を使用した Windows サービスのチェック：**

サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール]、[サービス] の順に選択して [Novell ZENworks Loader] および [Novell ZENworks サーバ] サービスの状態を確認します。

サービスが実行中でない場合は、サービスを開始します。[Novell ZENworks Server] サービスを右クリックして [開始] を選択し、[Novell ZENworks Loader] サービスを右クリックして [開始] をクリックします。

または、[Novell ZENworks サーバ] の [再起動] オプションを使用して、関連するサービスをすべて停止します。これによって、Novell ZENworks ロードを含む関連する各サービスはいったん停止してから、正しい順番で起動されます。

• **ZENworks コントロールセンターの実行：**

ネットワーク内の任意のデバイスの Web ブラウザで、次の URL を使用して ZENworks コントロールセンターを開きます。

`https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server:port_number/zenworks`

• **特定のサービスコマンドを使用した Linux サービスのチェック：**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

• **設定コマンドを使用した Linux サービスのチェック：**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

**6 他のプライマリサーバをアップグレードするには、[ステップ 2](#)から繰り返します。**

---

**重要：**管理ゾーン内にあるプライマリサーバすべてのアップグレードが完了するまで、これらのステップを繰り返します。システム更新によって ZENworks Adaptive Agents がアップグレードされたその他の管理対象デバイスは、まだアップグレードされていないプライマリサーバには接続できないようにしてください。

---

次の表に、必要なアップグレード情報がインストールフローの順序で一覧にされています。

**表 2-1** インストール情報

インストール情報 説明	
使用許諾契約	使用許諾契約を受諾しない場合は、アップグレードプログラムが終了します。
ZENworks 前提条件	<p>必要な前提条件がインストールされていない場合は、アップグレードを続行できません。満たされていない要件は、GUI に表示されるか、またはコマンドラインに一覧表示されます。詳細については、『<a href="#">ZENworks 11 インストールガイド</a>』の「<a href="#">システム要件</a>」を参照してください。</p> <p>.NET 前提条件が満たされていない場合は、説明内の [ZENworks] リンクをクリックして ZENworks にバンドルされているランタイムバージョンをインストールすることができます。.NET 3.5 SP1 フレームワークとそのすべての最新アップデートをインストールしたか確認します。.NET のインストール後、ZENworks アップグレードが続行します。</p>
ゾーン管理者情報	管理ゾーン管理者のログイン名とパスワードを指定します。
ZENworks 診断センター	<p>[はい、ZDC を使用してデータベーススキーマを検証しました] オプションを選択することにより、ZENworks 診断センターを使用して、ZENworks データベーススキーマが正しいことを検証したと確認します。このオプションを選択しない場合は、アップグレードを続行できません。</p> <hr/> <p><b>注：</b>このページは、ゾーン内で最初に ZENworks 11 アップグレードプログラムを実行するときにだけ表示されます。</p> <hr/>

インストール情報	説明
ZENworks ライセンス登録	<p data-bbox="451 260 1341 317">Novell ZENworks 11 製品を、そのアップグレードまたはインストール後に自動的に有効にする設定を行います。</p> <p data-bbox="451 338 1341 394">このページは、ゾーン内で最初に ZENworks 11 アップグレードプログラムを実行するときにだけ表示されます。</p> <p data-bbox="451 415 1260 472"><b>ZENworks 10 Configuration Management SP3 からアップグレードされた ZENworks 11 製品の有効化</b></p> <p data-bbox="451 499 1341 590">ZENworks 10 Configuration Management SP3 からアップグレードした ZENworks 11 製品を、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のライセンス状態に基づいて、有効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="477 611 1341 726">◆ ZENworks 11 Configuration Management、ZENworks 11 Asset Management、または ZENworks 11 Asset Inventory (UNIX/Linux 用) は、アップグレード前のライセンス状態によって、「評価」または「アクティブ」のいずれかとして有効化できます。</li> <li data-bbox="532 737 1341 940">◆ <b>ZENworks 10.3 製品のライセンス状態が「評価」の場合：</b>製品の ZENworks 11 ライセンスの状態を「評価」または「アクティブ」のいずれかとして有効にできます。製品の「評価」状態を有効にするには、<b>[評価]</b> チェックボックスを選択します。製品の「アクティブ」状態を有効にするには、ZENworks 11 アップグレードの購入時に取得したライセンスキーを指定します。ライセンスキーを指定すると、<b>[評価]</b> チェックボックスが自動的にオフになります。</li> <li data-bbox="532 951 1341 1098">◆ <b>ZENworks 10.3 製品のライセンス状態が「アクティブ」の場合：</b>製品の ZENworks 11 ライセンスの状態を「アクティブ」としてのみ有効にできます。ZENworks 11 アップグレードの購入時に入手したライセンスキーを指定します。ライセンスキーを指定すると、<b>[評価]</b> チェックボックスが自動的にオフになります。</li> </ul> <hr/> <p data-bbox="565 1125 1341 1182"><b>注：</b>ZENworks 11 ライセンスキーを指定せず、<b>[評価]</b> チェックボックスを選択した場合は、ZENworks 11 アップグレードを続行できません。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="477 1209 1341 1293">◆ ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態は、自動的に ZENworks 11 に移行されます。ZENworks 11 アップグレードを使用してライセンス状態を変更することはできません。</li> <li data-bbox="532 1304 1341 1541">◆ <b>ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態は、「評価」または「アクティブ」です。</b>ZENworks 11 Patch Management のライセンス状態は、自動的に「評価」または「アクティブ」として保持されます。ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態が「アクティブ」の場合、他の ZENworks 11 製品の「アクティブ」状態や「評価」状態を有効化しないように選択できます。ZENworks 11 Patch Management は、ZENworks Configuration Management がアクティブ化されていない場合でも、アクティブ化されます。</li> </ul>

- ◆ **ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態は、「非アクティブ化」です。**ZENworks 11 Patch Management のライセンス状態が「非アクティブ化」であり、製品が有効にならない場合は、次の手順で ZENworks 11 Patch Management を有効にしてください。

1. 次の ZENworks 11 製品のいずれかの評価バージョンまたはアクティブバージョンを有効にします。

- ◆ ZENworks 11 Configuration Management
- ◆ ZENworks 11 Asset Management
- ◆ ZENworks 11 Endpoint Security Management

2. 後で、ZENworks コントロールセンターを介して、ZENworks 11 Patch Management を「評価」状態または「アクティブ」状態のいずれかに有効化します。

製品をアクティブ化する方法の詳細については、『[ZENworks 11 システム管理リファレンス](#)』の「[ZENworks 11 製品ライセンス](#)」を参照してください。

### ZENworks 11 Endpoint Security Management の有効化

次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 「評価」状態を有効にするには、その「[評価](#)」チェックボックスを選択します。

ZENworks 11 Endpoint Security Management が、60 日間のトライアルライセンスでインストールされます。

- ◆ 「アクティブ」状態を有効にするには、ZENworks 11 アップグレードの購入時に取得したライセンスキーを指定します。

ライセンスキーを指定すると、「[評価](#)」チェックボックスが自動的にオフになります。

#### アップグレード前の概要

概要には次のフィールドが表示されます。

**ZENworks ホームディレクトリ**：アップグレードする ZENworks ソフトウェアがインストールされているプライマリサーバ上の場所が表示されます。

**ゾーン名**：このサーバが属する管理ゾーンの名前が表示されます。

**データベースのアップグレード**：ZENworks データベースをアップグレードするかどうかを指定します。ステータスがプログラムによって自動的に確認され、アップグレードが必要かどうかチェックされます。

情報を変更するには、「[戻](#)」をクリックします。

#### アップグレードプロセス

ハードウェアの能力によっては、アップグレードプロセスには数十分かかります。

アップグレード中に、「[キャンセル](#)」をクリックしてアップグレードを停止できます。この場合、その時点までにアップグレードされた変更はファイル内にそのまま残ります。キャンセル後の操作の詳細については、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support/\)](http://www.novell.com/support/) にお問い合わせください。

#### アップグレードエラー

アップグレード中にエラーが発生した場合は、このページが表示されます。詳細については、Windows の場合は `\novell\zenworks\logs`、Linux の場合は `/Novell/ZENworks/logs` にあるログファイルを参照してください。エラーを解決して、アップグレードを再開する必要があります。

インストール情報	説明
アップグレード 後アクション	アップグレードプログラムを終了する前に、ZENworks システムステータスユーティリティを実行して、ZENworks サービスのハートビートチェックを起動するように選択できます。結果はインストールログに転記されます。
サーバの再起動 (Windows の場合 のみ)	Windows プライマリサーバでアップグレードが成功したら、すぐに再起動するか、 後で再起動するか選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>はい、システムを再起動します</b>：このオプションを選択すると、サーバが再起動されアップグレード処理が完了します。</li> <li>◆ <b>いいえ、システムを後で手動で再起動します</b>：このオプションを選択すると、サーバの次回再起動時にアップグレード処理が完了します。</li> </ul> <hr/> <b>重要</b> ：アップグレード処理を完了するには、結局はサーバを再起動する必要があります。
アップグレード の完了	次のアクションを含め、前に選択したアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks データベースをアップグレードする (最初のプライマリサーバのアップグレード時に実行)。</li> <li>◆ プライマリサーバにインストールされている ZENworks コンポーネントすべてのアップグレード。</li> <li>◆ ゾーンへのシステム更新のインポート (ゾーン内の管理対象デバイスのアップグレードが可能になる)</li> </ul>

## 2.4.2 コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード

ZENworks Configuration Management 10.3.x から ZENworks 11 にアップグレードしたいプライマリサーバで、次の手順を実行します。

- 1 [22 ページのセクション 2.3「前提条件」](#) で説明されているアップグレードの前提条件を満たしていることを確認します。
- 2 ZENworks 11 アップグレードプログラムを起動して Linux ターミナルを開き、アップグレードメディアのルートを参照して、次のコマンドを入力します。

```
setup.sh --console --upgrade
```

または

```
setup.sh -e -g
```

- 3 インTRODクションを確認してから、<Enter> を押して続行します。

---

**ヒント**：「back」と入力し、<Enter> を押すと、前のインストールオプションに戻って変更を行うことができます。

---

- 4 使用許諾契約に同意する場合は、「1」と入力して <Enter> を押します。  
デフォルト言語は英語です。使用する言語に対応する番号を選択して続行します。  
同意しない場合、アップグレードは終了します。
- 5 [ゾーンの管理ユーザの名前を入力します。] 行で、<Enter> を押してデフォルト (Administrator) をそのまま使用するか、または管理者名を指定して <Enter> を押します。
- 6 管理者のパスワードを指定して <Enter> を押します。

- 7 ZENworks データベーススキーマが正しいことを、ZENworks 診断センターを使用して検証したと確認します。

確認しないと、アップグレードを続行できません。

- 8 (最初のプライマリサーバをアップグレードする場合のみ) アップグレード用に取得したライセンスキーを指定して、ライセンスキーごとに <Enter> を押します。

ライセンスキーを指定しない場合は、単に <Enter> を押して続行します。

- 9 ZENworks でこのサーバ上のサービスを自動的に停止するには、<Enter> を押します。それ以外は、「2」を入力して <Enter> を押します。

アップグレードの準備をする際、管理ゾーン内にあるすべてのプライマリサーバのサービスを前もって停止しておく必要があります。アップグレードプログラムを開始する前にこれらのサービスを手動で停止した場合でも、1 を選択すれば、すべてのサービスを確実に停止できます。

アップグレード中は、データベースサービスを除く ZENworks サービスは一切実行できません。

- 10 アップグレード前の概要を確認し、<Enter> を押して続行します。

管理ゾーン内にある他のプライマリサーバをアップグレードする場合は、このステップで <Enter> を押すとアップグレードが開始します。

- 11 [インストールが完了しました] と表示されたら、<Enter> を押して続行します。

エラーの発生が示されたら、インストールログ (Linux では /Novell/ZENworks/logs) を参照してください。

- 12 次のどれかを実行して、ZENworks 11 が実行されていることを確認します。

- ◆ 特定のサービスコマンドを使用した Linux サービスのチェック サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

- ◆ 設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ ZENworks コントロールセンターの実行 ネットワーク内の任意のデバイスの Web ブラウザで、次の URL を使用して ZENworks コントロールセンターを開きます。

```
https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server/zenworks
```

これは、ZENworks をインストールした直後のサーバか、管理対象ワークステーションから実行できます。

- 13 他のプライマリサーバをアップグレードするには、ステップ 2 から繰り返します。



## 2.5 ZENworks Reporting Server のアップグレード

ZENworks Reporting Server が ZENworks 10 Configuration Management(10.3) プライマリサーバにインストールされている場合は、サーバを ZENworks 11 にアップグレードすると ZENworks Reporting Server が機能しなくなります。

ZENworks Reporting Server の新しいインスタンスを、同じプライマリサーバか、別のサーバにインストールする必要があります。

- ◆ [32 ページのセクション 2.5.1「同じプライマリサーバへの ZENworks Reporting Server のインストール」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.5.2「別のサーバへの ZENworks Reporting Server のインストール」](#)

### 2.5.1 同じプライマリサーバへの ZENworks Reporting Server のインストール

- 1 [25 ページのセクション 2.4「プライマリサーバのアップグレード」](#)の説明どおりにプライマリサーバをアップグレードしたことを確認します。
- 2 ZENworks Reporting Server の既存インスタンスをアンインストールします。

ZENworks 10 Configuration Management SP3 Reporting Server をアンインストールする手順は、ZENworks 11 Reporting Server に使用する手順と同じです。ZENworks Reporting Server をアンインストールする方法の詳細については、『[ZENworks 11 Reporting Server インストールガイド](#)』の「[ZENworks Reporting Server のアンインストール](#)」を参照してください。

---

**注：**ZENworks 10 Reporting Server SP3 のアンインストール中、アンインストールウィザードは、[ZENworks 11 Reporting Server のアンインストール] として不正確に表示されます。ウィザードを続行して、ZENworks 10 Reporting Server SP3 をアンインストールできます。

---

- 3 ZENworks Reporting Server をインストールします。  
ZENworks Reporting Server のインストール方法については、『[ZENworks 11 Reporting Server インストールガイド](#)』を参照してください。
- 4 次のコマンドを実行して、[22 ページのセクション 2.3.1「管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件」](#)の説明に従ってバックアップしたレポートとレポートデータを復元します。

zman report-load (ソースフォルダ)

ソースフォルダは、すべてのレポートとレポーティング権限のアップロード元にするフォルダの場所です。

詳細については、『[ZENworks 11 コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[レポートコマンド](#)」を参照してください。



## 2.5.2 別のサーバへの ZENworks Reporting Server のインストール

- 1 25 ページのセクション 2.4 「プライマリサーバのアップグレード」の説明どおりにプライマリサーバをアップグレードしたことを確認します。
- 2 ZENworks Reporting Server をインストールします。  
ZENworks Reporting Server のインストール方法については、『ZENworks 11 Reporting Server インストールガイド』を参照してください。
- 3 次のコマンドを実行して、22 ページのセクション 2.3.1 「管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件」の説明に従ってバックアップしたレポートとレポートデータを復元します。

zman report-load ( ソースフォルダ )

ソースフォルダは、すべてのレポートとレポートング権限のアップロード元にするフォルダの場所です。

詳細については、『ZENworks 11 コマンドラインユーティリティリファレンス』の「レポートコマンド」を参照してください。

---

**注：**ゾーン内にある ZENworks 10 Reporting Server SP3 の前のインスタンスは、いつでもアンインストールできます。ただし、このインスタンスをインストールしたままにしても、現在インストールされている ZENworks 11 Reporting Server の機能に影響はありません。

---

## 2.6 既知の問題

Windows プライマリサーバのアップグレード時には、次の問題に遭遇することがありますが、これらは無視できます。

- Windows Explorer が、数回、自動的に再起動する。
- 次のメッセージを表示したコマンドプロンプトウィンドウが自動的に開く。  
For each prompt presented, press 'enter' to accept the <default> value,  
type 'back' to return to the previous action, or type 'quit' to exit.

## 2.7 トラブルシューティング

次の各セクションでは、ZENworks 11 へのアップグレード時に発生する可能性がある問題の解決方法を示します。

- 33 ページの「ZENworks 診断センターがデータベーススキーマのエラーを報告する」
- 35 ページの「ZENworks 診断センターがデータベーステーブル構造内の不一致エラーを報告する」

### ZENworks 診断センターがデータベーススキーマのエラーを報告する

原因: ZENworks 11、アップグレード

説明: ZENworks 10 Configuration Management SP3 を新規にインストールし、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール前にデータベーススキーマを作成したプライマリサーバをアップグレードする場合、ZENworks 診断センターのデータベーススキーマベリファイアを実行すると、次のエラーが表示されます。

```
Mismatch in table 'zInstallationPackage' structure.  
Object type: [Column] , Object name: [Platform]  
Expected: [Name: Platform, Size: 255, Type: VARCHAR,  
Nullable: true]  
Found: [Name: Platform, Size: 32, Type: VARCHAR, Nullable:  
true]
```

この問題を解決しなくても、ZENworks 11 へのアップグレードを選択できますが、ZENworks 11 イメージング操作は失敗します。

考えられる原因: ZENworks 診断センターのデータベーススキーマに含まれている SQL セットは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール時に作成されるデータベーススキーマに含まれている SQL セットとは異なります。

アクション: ZENworks 11 にアップグレードする前に、ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバのいずれかから、次の手順を実行してください。

- 1 適切なユーティリティを使用して、ZENworks データベースに接続します。

たとえば、DBISQL ユーティリティを使用して、外部 Sybase データベースに接続します。

- 1a 外部 Sybase データベースがインストールされたデバイスのコマンドプロンプトで、%ZENWORKS\_HOME%\share\ASA\win32 ディレクトリ (Windows 上) または /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリ (Linux 上) に移動します。

- 1b dbisql を入力します。

- 1c [Identification( 識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。

- 1d [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。

- 1e [OK] をクリックします。

- 2 適切なクエリを実行します。

- ◆ Sybase の場合:

```
alter table zInstallationPackage modify Platform  
nvarchar(255);
```

- ◆ Oracle の場合:

```
alter table zInstallationPackage modify Platform  
varchar2(255 char);
```

- ◆ MS SQL の場合:

```
alter table zInstallationPackage alter column  
Platform nvarchar(255);
```

- 3 プライマリサーバのコンソールプロンプトから、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c ZoneConfigUpdateConfigureAction
```

## ZENworks 診断センターがデータベーステーブル構造内の不一致エラーを報告する

原因: ZENworks 11、アップグレード

説明: ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバが、ZENworks 10 Configuration Management SP2 より前にセットアップされた MS SQL Server データベースに対して設定されたゾーンに存在する場合は、サーバを ZENworks 11 にアップグレードする前に ZENworks 診断センターのデータベーススキーマバリファイアを実行すると、次のエラーが発生します。

```
Mismatch in table 'zPolicyDef' structure.  
Object type: [Column] , Object name: [ComponentName  
Expected: [Name: ComponentName, Size: 64, Type: VARCHAR,  
Nullable: true]  
Found: [Name: ComponentName, Size: 64, Type: VARCHAR,  
Nullable: false]
```

考えられる原因: ZENworks 10 Configuration Management SP2 より前にセットアップされたゾーンのデータベーススキーマに含まれる SQL セットが、ZENworks 診断センターのデータベーススキーマに含まれる SQL セットと異なります。

アクション: ZENworks 11 にアップグレードする前に、ZENworks 10 Configuration Management SP2 より前にセットアップされた MS SQL Server データベースに対して設定されたゾーン内の ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバのどれかから、次の手順を実行します。

- 1 Microsoft SQL Server Management Studio ユーティリティなどの適切なユーティリティを使用して、ZENworks データベースに接続します。
- 2 次のクエリを実行します。

```
alter table zPolicyDef alter column ComponentName  
nvarchar(64) null;
```



# ZENworks 11 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード

管理対象デバイスとサテライトに次のバージョンのいずれかがインストールされている場合は、ZENworks 11 にアップグレードできます。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2)
- ◆ Update for ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2.1)
- ◆ Update for ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2.2)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3)
- ◆ Update for ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.1)

ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x がインストールされた Windows 2000 管理対象デバイスは、Windows 2000 が ZENworks 11 の管理対象デバイス用にサポートされているプラットフォームでないので、アップグレードできません。ただし、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x がインストールされた Windows 2000 管理対象デバイスは、ZENworks 11 プライマリサーバと通信することはできます。

ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x がインストールされた管理対象デバイスをテストデバイスとしてマークすることはできません。そのようなデバイスをテストデバイスとしてマークするには、デバイスを ZENworks 11 にアップグレードする必要があります。テストデバイスの詳細については、[10 ページのセクション 1.3 「バンドルとポリシーの変更管理」](#)を参照してください。

管理対象デバイスとサテライトを ZENworks 11 にアップグレードするには、次の各セクションを参照してください。

- ◆ [37 ページのセクション 3.1 「サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするための前提条件」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 3.2 「サテライトと管理対象デバイスのアップグレード」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 3.3 「既知の制限事項」](#)

## 3.1 サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするための前提条件

サテライトまたは管理対象デバイスを ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x から ZENworks 11 にアップグレードする前に、次のタスクを完了する必要があります。

- ◆ デバイスが ZENworks 11 の最小システム要件を満たすことを確認します。  
詳細については、『[ZENworks 11 インストールガイド](#)』の「[管理対象デバイス要件](#)」を参照してください。
- ◆ Microsoft .NET 3.5 SP1 以上のフレームワークとその最新の更新がデバイスにインストールされ、実行していることを確認します。
- ◆ Windows Installer 4.5 以上がデバイスにインストールされ、実行していることを確認します。

- ◆ ZENworks Endpoint Security Management のクライアントがデバイスにインストールされていないことを確認します。デバイスにクライアントがインストールされている場合は、デバイスを ZENworks 11 にアップグレードする前に、クライアントをアンインストールする必要があります。
- ◆ ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 11 にアップグレードされたことを確認します。
- ◆ サテライトと管理対象デバイスを ZENworks 11 にアップグレードするシステム更新展開計画に、ZENworks Configuration Management 10.3.x プライマリサーバが含まれていないことを確認します。システム更新を ZENworks Configuration Management 10.3.x プライマリサーバに展開すると、システム更新が失敗し、サテライトまたは管理対象デバイスに対して、更新処理が続行しません。
- ◆ ステージごとにシステム更新を展開するように選択する場合は、作成するステージに少なくとも 1 つのステージメンバー ( 個々のデバイスとデバイスを含むグループ ) が含まれるようにします。
- ◆ 自分のゾーンから登録解除され、ZENworks 11 ゾーンに登録された 10.3.0 Vista エージェントデバイスが存在する場合、その Vista エージェントは、ZENworks 11 へのアップグレード後、ZENworks 11 Configuration Management サーバと連絡できなくなります。この問題を回避するには、次のいずれかを行います。
  - ◆ オプション 1: 10.3.0 Vista エージェントを 10.3.1 または 10.3.2 に更新してから、ZENworks 11 に更新するようにします。
  - ◆ オプション 2: ZEN 11 へのアップグレードが完了したら、zac reg コマンドを使用して、Vista エージェントを ZEN 11 ゾーンに手動で登録します。

## 3.2 サテライトと管理対象デバイスのアップグレード

サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするには、システム更新機能を使用します。詳細については、『ZENworks 11 システム管理リファレンス』の「ZENworks システム更新」を参照してください。

管理対象デバイスに ZENworks 11 更新を展開する際に問題が発生したら、次のログファイルを参照してください。

**Windows:** `installation_path\novell\zenworks\logs\system-update\5011000000d18c113224186fa9b4e05c\system-update.log`

**Linux:** `/var/opt/novell/log/zenworks/system-update/5011000000d18c113224186fa9b4e05c/system-update.log`

アップグレードログファイルのパス内の 5011000000d18c113224186fa9b4e05c は、システム更新の GUID を示しています。

## 3.3 既知の制限事項

- ◆ ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x から ZENworks 11 への管理対象デバイスのアップグレード時には、アップグレードが成功の場合でも、エラーメッセージまたは警告が ZENworks コントロールセンターに不正確にログされることがあります。

アクション: エラーメッセージを無視し、管理対象デバイスをリフレッシュします。

# ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード

ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレードには、直接的な方法はありません。ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 にアップグレードするには、まず、ZENworks Virtual Appliance 11 を展開する必要があります。この展開は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance をホストしている同じ ESX サーバで実行します。初めて ZENworks Virtual Appliance 11 をブートすると、環境設定ウィザードが起動されます。そのウィザードで、ZENworks Virtual Appliance 11 の必要なネットワーク識別情報 (IP アドレスと DNS 名) を指定する必要があります。ZENworks Virtual Appliance 11 の IP アドレスまたは DNS 名は、アップグレードのために一時的に使用されますが、その後は不要になります。

ZENworks Virtual Appliance 11 のマイグレーションウィザードは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレードと、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのデータと設定のマイグレーションを同時に実行します。マイグレーションの完了までの時間は、ネットワークの速度、帯域幅、および移行するデータ量によって左右されます。

---

**重要 :** ZENworks Virtual Appliance 11 は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance のネットワーク識別情報を取得します。ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード後、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance は電源オフになるので、このアプライアンスを管理ゾーンで使用しないようにしてください。

---

次の各セクションでは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 にアップグレードする方法について説明します。

- [39 ページのセクション 4.1 「アップグレード前のタスク」](#)
- [41 ページのセクション 4.2 「ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード」](#)
- [43 ページのセクション 4.3 「アップグレード後のタスク」](#)

## 4.1 アップグレード前のタスク

ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレードを開始する前に、次のタスクを実行します。

- [21 ページの「ZENworks 11 へのプライマリサーバのアップグレード」](#) のタスクを必ず実行しておくようにします。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance とそのデータベースのスナップショットを撮ります。
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から、パーソナルデータ、環境設定、および自動化スクリプトをバックアップします。
- ◆ ZENworks プライマリサーバのバックアップを取ります。エラーが発生した場合、ZENworks プライマリサーバを復元できます。  
バックアップの取り方の詳細については、『ZENworks 11 システム管理リファレンス』の「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」を参照してください。  
(条件付き)ZENworks Reporting Server がインストールされている場合は、zman レポートコマンドを使用して、レポートの信頼性の高いバックアップを取ります。  
zman レポートコマンドの詳細については、サーバ上で zman マニュアルページを表示するか (man zman)、『ZENworks 11 コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。
- ◆ ZENworks 診断センターを使用して、ZENworks データベーススキーマを検証します。
  1. zdc\_zen11\_rc1\_prerequisite.zip ファイルを [Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/Download?buildid=EwGiwfTOVjw\)](http://download.novell.com/Download?buildid=EwGiwfTOVjw) から一時的にデバイス上の適当な場所にダウンロードします。
  2. ダウンロードしたファイルを ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance にコピーします。
  3. ZIP ファイルの内容を一時的に適当な場所に抽出します。
  4. コンソールから、抽出した ZENworks 診断センターのファイルを含むディレクトリに移動します。
  5. 次のコマンドを実行します。  
/bin/sh zdc\_zen11
- ◆ ZENworks11\_Appliance-x86\_64.ova またはマルチパートの ZENworks Appliance ZIP ファイルをダウンロードします。次のいずれかの操作を行います。
  - ◆ ZENworks11\_Appliance-x86\_64.ova ファイルをダウンロードします。
  - ◆ マルチパートの ZENworks Appliance ZIP ファイルをダウンロードします。
    1. 次のファイルをデバイス上の一時的に適当なディレクトリにダウンロードします。  
ZENworks11\_Appliance-x86\_64.zip.001  
ZENworks11\_Appliance-x86\_64.zip.002  
ZENworks11\_Appliance-x86\_64.zip.003  
ZENworks11\_Appliance-x86\_64.zip.004
    2. 7-zip または WinZip 9.x の使用によって、ZENworks11\_Appliance-x86\_64.zip.001 を抽出します。  
これによって、すべてのマルチパート ZENworks Appliance ZIP ファイルが自動的にマージされ、ZENworks11\_Appliance-x86\_64.ova ファイルが作成されます。
    3. ZENworks Appliance OVA ファイルをインポートし、仮想インフラストラクチャに展開します。
- ◆ (推奨) ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance と同じ ESX サーバに ZENworks Virtual Appliance 11 を展開します。



## 4.2 ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 へのアップグレード

ZENworks Appliance イメージは、ZENworks 11 の 3 つのエディション (Standard、Advanced、Enterprise) すべてにバンドルされています。

- 1 ZENworks 11 ダウンロード Web サイト (<http://download.novell.com/index.jsp>) から OVA ファイルをダウンロードするか、マルチパート ZENworks Appliance ZIP ファイルをダウンロードして OVA ファイルを作成します。

詳細については、ZENworks 11 のダウンロードとインストールのページ (<http://www.novell.com/documentation/zenworks11/>) を参照してください。

- 2 ZENworks Appliance のイメージをインポートすることによって、事前インストールされた ZENworks Appliance を持つ仮想コンピュータを作成します。

ZENworks Appliance イメージは、オープン仮想アーカイブ形式 (ZENworks\_Appliance.x86\_64-11.ova) で保存されており、VMware vSphere Client アプリケーションを使用して、VMware インフラストラクチャにインポートできます。

**2a** VMware vSphere Client アプリケーションを起動します。

**2b** [ファイル] > [OVF テンプレートの展開] の順にクリックして、[Deploy OVF Template(OVF テンプレートの展開)] ウィザードを起動します。

**2c** [ソース] ページで、次のオプションの 1 つを選択して、[次] をクリックします。

- [ファイルから選択] をクリックし、ZENworks Appliance イメージを含む .ova ファイルを参照して選択します。
- [URL から展開] をクリックして、Web サーバから .ova ファイルをダウンロードします。

**2d** [次へ] をクリックします。

**2e** プロンプトに従って、.ova ファイルの展開を完了します。

**2f** 展開が完了したら、[完了] をクリックします。

- 3 (オプション) **ステップ 2** で作成した仮想コンピュータのスナップショットを取ります。
- 4 ZENworks Appliance イメージのインポート先にした仮想コンピュータの電源をオンにします。  
[環境設定] ウィザードが自動的に起動します。
- 5 [環境設定] ウィザードの [使用言語] ページで、以後、ウィザードで使用したい言語を選択し、[次] をクリックします。
- 6 [使用許諾書] ページで、[エンドユーザ使用許諾契約] を受諾して、[次] をクリックします。
- 7 [キーボード] ページで、キーボードレイアウトを設定して、[次] をクリックします。
- 8 [タイムゾーン] ページで、システムで使用するタイムゾーンと時計の設定を行い、[次] をクリックします。

アップグレード時に、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance の設定で、タイムゾーン情報が上書きされます。

- 9 [ルートパスワード] ページで、ルートパスワードを指定します。
- 10 [ネットワーク] ページで、[ネットワークインタフェース] > [イーサネットネットワークカード] > [編集] の順にクリックして、次の ZENworks Appliance のネットワーク情報を設定します。

- ◆ ホスト名とサーバ名

サーバには、静的な IP アドレスまたは永久にリースされる DHCP アドレスを持つ必要があります。

- ◆ マシンの IP アドレス (スタティック IP アドレス用)

- ◆ サブネットマスク (スタティック IP アドレス用)

- ◆ デフォルトゲートウェイ (スタティック IP アドレス用)

アップグレード先のアプライアンスサーバの IP アドレスまたは DNS 名は、旧アプライアンスサーバのものとは異なる必要があります。ZENworks Virtual Appliance 11 サーバの IP アドレスと DNS 名が、アップグレード用に一時的に使用されます。

- 11 [完了] をクリックします。

[ZENworks 11] ウィザードが表示されます。このウィザードの起動には、数秒かかることがあります。

- 12 ZENworks 11 ウィザードで、[既存アプライアンスの移行] オプションを選択して、[次] をクリックします。

- 13 [IP/DNS] フィールドで、リモートアプライアンスサーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

- 14 [次へ] をクリックします。

- 15 [ルートパスワード] ダイアログボックスで、ルートパスワードを指定し、[OK] をクリックします。

- 16 [次へ] をクリックします。

ゾーン管理者の資格情報を入力するように促されます。使用できる資格情報を使用して、管理ゾーンの認証を受けます。

- 17 ゾーン内の最初のプライマリサーバをアップグレードする場合は、[ステップ 17a](#)に進み、そうでない場合は[ステップ 18](#)までスキップします。

- 17a [製品のライセンス登録] ページで、製品のライセンスキーを指定して [次] をクリックします。

- 17b [ZENworks 診断センター] ページで、[はい、ZDC を使用してデータベーススキーマを検証しました] チェックボックスを選択して [次] をクリックします。

- 17c [警告] ページで、[次] をクリックします。

- 18 [アップグレード前の概要] ページで、[インストール] をクリックします。

アップグレードインストーラが、インストールメディアを ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 にコピーします。アップグレードの完了後、環境設定ファイル、コンテンツ、データベース (データベースが組み込み Sybase の場合)、およびネットワーク設定 (ホスト名、IP アドレス、タイムゾーン情報、レポートなど) が ZENworks Virtual Appliance 11 にコピーされます。ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance のネットワーク設定が無効になり、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance を搭載したデバイスの電源がオフになります。

アップグレード処理を完了するには、最終的に ZENworks Virtual Appliance 11 を再起動する必要があります。

- 19** (条件付き) ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance が ZENworks Reporting Server を使用するように設定した場合は、ZENworks Virtual Appliance 11 に最初にログインする時に ZENworks Reporting Server のウィザードが自動的に起動されます。ZENworks Reporting Server の設定が終了すると、レポートは ZENworks 11 Reporting Server にインポートされます。

ZENworks Reporting Server の設定方法の詳細については、『[ZENworks Virtual Appliance 11 展開および管理リファレンス](#)』の「[事前インストールした ZENworks Reporting Server の設定](#)」を参照してください。

- 20** (条件付き) ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance が Oracle データベースを使用するように設定した場合は、ZENworks Reporting Server ウィザードをキャンセルして、ZENworks Virtual Appliance 11 に Oracle Client をインストールします。

Oracle Client のインストール後は、次のコマンドを使用して、ログアウト、ログイン、ZENworks Reporting Server ウィザードの手動起動を行います。

```
/var/adm/zenworks/launchZRS.sh
```

ZENworks Reporting Server ウィザードを手動で起動し、ZENworks Reporting Server を設定する方法の詳細については、『[ZENworks 11 Reporting Server インストールガイド](#)』の「[ZENworks Reporting Server ウィザードの手動起動](#)」を参照してください。

## 4.3 アップグレード後のタスク

ZENworks Virtual Appliance 11 にアップグレードした ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance が動的 IP アドレスを使用するように設定されている場合は、新サーバの DHCP 設定を手動で更新してから、このサーバの使用を開始する必要があります。



# ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスの管理上の考慮事項

ZENworks 11 では、ZENworks 11 プライマリサーバから、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスを管理できます。次の各セクションを参照して、ZENworks 11 プライマリサーバから、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスを管理する上での考慮事項を理解してください。

- ◆ 45 ページのセクション 5.1「ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスを管理するための ZENworks 11 サーバの準備」
- ◆ 46 ページのセクション 5.2「ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバールールを作成と管理」
- ◆ 57 ページのセクション 5.3「既知の制限事項」

## 5.1 ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスを管理するための ZENworks 11 サーバの準備

ZENworks 11 サーバは、ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスと互換性がありますが、10.3.x ゾーンまたは混合ゾーン (10.3.x 管理対象デバイスと 11.0 の管理対象デバイスを含む) に新規インストールされた ZENworks 11 サーバは、次の手順を経ないと、通信相手の 10.3.x 管理対象デバイスに対するコンポーネント管理機能を提供できません。

次のファイルを、ゾーン内の 10.3.x サーバまたはシステム更新された 11.0 サーバからコピーし、新たにインストールされた ZENworks 11 サーバの該当する場所で置換します。

### Linux の場合：

```
/opt/novell/zenworks/install/downloads/novell-*.msi
/opt/novell/zenworks/install/downloads/novell-*.msi.superceded
```

### Windows の場合：

```
%ZENWORKS_HOME%\install\downloads\novell-*.msi
%ZENWORKS_HOME%\install\downloads\novell-*.msi.superceded
```

新規インストールされた ZENworks 11 サーバ上のファイルのコピー先：

### Linux の場合：

```
/opt/novell/zenworks/install/downloads/
/opt/novell/zenworks/install/downloads/
```

## Windows の場合：

%ZENWORKS\_HOME%\install\downloads\

%ZENWORKS\_HOME%\install\downloads\

---

**注：**Linux では、コピーされたすべてのファイルに必ず zenworks:zenworks 所有権があるようにします。これらのファイルの適切な所有権を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
chown zenworks:zenworks /opt/novell/zenworks/install/downloads/novell-*.msi
```

```
chown zenworks:zenworks /opt/novell/zenworks/install/downloads/novell-*.msi.superceded
```

---

## 5.2 ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバールの作成と管理

ZENworks 管理ゾーンに、1 つ以上のサーバ (プライマリサーバおよびサテライト) が含まれている場合、デバイスがどのサーバに接続されるのかを指定する必要があります。[最近接サーバールール] パネルでは、デバイスが接続するサーバを決めるルールを作成できます。最近接サーバールールでは、サテライトとして設定されているデバイスは、サーバと見なされます。

デバイスがサーバに接続する理由として、次の基本的な機能があります。

- ◆ **コレクション：**インベントリおよびメッセージログの情報は各デバイスから収集され、ZENworks コントロールセンターで表示したり、レポートに出力することができます。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトはコレクションサーバとして動作できます。
- ◆ **コンテンツ：**管理対象デバイスにコンテンツが提供されます。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトはコンテンツサーバとして動作できます。
- ◆ **設定：**環境設定および登録情報はデバイスに適用されます。ZENworks プライマリサーバのみが設定サーバとして機能できます。
- ◆ **認証：**管理対象デバイスは、ZENworks サーバにコンタクトして、管理ゾーンに対して認証します。各 ZENworks プライマリサーバおよび任意のサテライトは認証サーバとして動作できます。

デバイスは、すべての機能に対して 1 つのサーバにコンタクトするか、各機能に対して別々のサーバにコンタクトすることができます。各デバイスには、適用される最密サーバールールが 1 つのみ存在します。デバイスの有効なルールは次のようにして決定されます。

1. **デバイスの設定：**デバイスに設定されたすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。
2. **フォルダ設定：**適用されるデバイスルールがない場合は、デバイスの親フォルダに設定されているすべてのルールが評価されます。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。満たさない場合は、1 つ上の階層のフォルダに設定されているルールを評価します。

3. **管理ゾーン**：適用されるフォルダルールがない場合、管理ゾーンで設定されているすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。基準を満たさない場合は、デバイスにデフォルトルールを適用します。
4. **デフォルトルール**：デバイス、フォルダ、または管理ゾーンのルールが適用されない場合は、デフォルトルールがデバイスに適用されます。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にコンテンツサーバを並べただけのリストです。

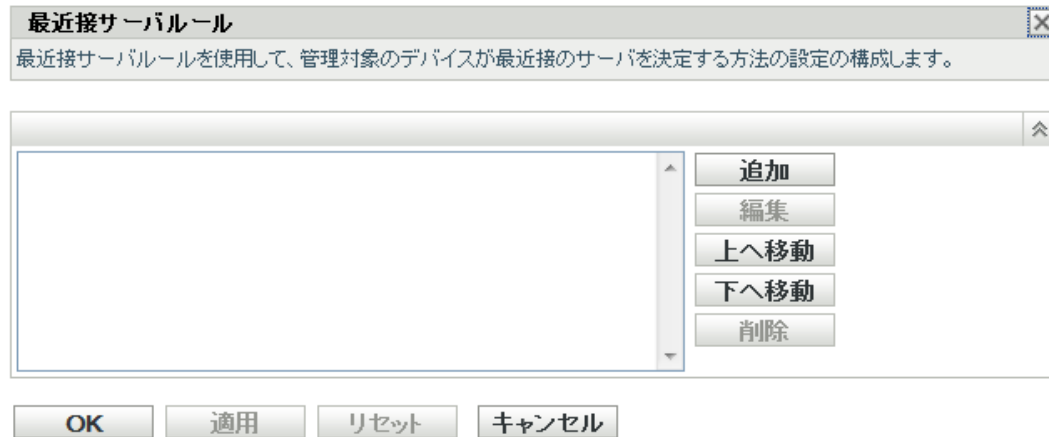
最近接サーバルールは、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x デバイスおよび ZENworks 11 デバイスに適用できます。最近接サーバデフォルトルールをデバイスの最近接サーバの決定に使用したくない場合は、カスタマイズした最近接サーバルールを作成できます。ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイスの最近接サーバルールは、3つのレベル（管理ゾーン、デバイスフォルダ、デバイス）で作成できます。管理ゾーンを ZENworks 11 に対するベースラインにすると、これらの設定は無効になります。ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x デバイス用にカスタマイズした最近接サーバルールを作成する場合は、[47 ページのセクション 5.2.1 「ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバルールの作成」](#)を参照してください。ZENworks 11 デバイスの場合、カスタマイズした最近接サーバは、場所で設定されます。詳細については、『[ZENworks 11 システム管理リファレンス](#)』を参照してください。

次の節を参照してください。

- ◆ [47 ページのセクション 5.2.1 「ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバルールの作成」](#)
- ◆ [57 ページのセクション 5.2.2 「ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバルールのバックアップ」](#)

## 5.2.1 ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバルールの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターを起動します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - ◆ 管理ゾーン向けの最近接サーバルールを作成するには、[設定] タブをクリックして、[インフラ管理]（[管理ゾーンの設定] パネル）> [最近接サーバルール] の順にクリックします。
  - ◆ デバイスフォルダ向けの最近接サーバルールを作成するには、フォルダの詳細ページを開いて、[設定] > [インフラ管理]（[設定] パネル）> [最近接サーバルール] の順にクリックします。
  - ◆ デバイス向けの最近接サーバルールを作成するには、デバイスの詳細ページを開いて、[設定] > [インフラ管理]（[設定] パネル）> [最近接サーバルール] の順にクリックします。



- 3 (条件付き) デバイスまたはデバイスフォルダ向けに最近接サーバルールを作成する場合、[設定の上書き] をクリックし、[最近接サーバルール] パネルをアクティブ化します。

[上書き] オプション (描画なし) は、デバイスおよびデバイスフォルダレベルでのみ表示されます。



- 4 [追加] をクリックして、[ルール構築] ダイアログボックスを表示します。

ルール構築

ルール名: \*

☐ 最近接サーバのデフォルトルールを除外

ルールロジック: \*

フィルタの追加 フィルタセットの追加 フィルタの挿入 ▼ 削除

次の項目を使用してフィルタを結合: および ▼

☐ -選択-

コレクションサーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

コンテンツサーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

設定サーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

認証サーバ:

上へ移動 下へ移動 追加 削除 グループ ▼ L4スイッチ ▼

名前

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 5 [ルール名] フィールドに、ルールの名前を指定します。

ZENworks コントロールセンターの中の最近接サーバルールの一覧に名前が表示されます。この一覧にアクセスするには、左パネルにある [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックし、[管理ゾーンの設定] パネルをクリックして開き、[インフラ管理] セクションをクリックして開き、最後に [最近接サーバルール] をクリックします。現在のレベルに対して定義されているすべてのルールがここに表示されます。

- 6 この最近接サーバルールに、一覧にしたサーバに最近接サーバのデフォルトルールを付加しない場合は、[最近接サーバのデフォルトルールを除外] チェックボックスをオンにします。

最近接サーバルール機能は、まずルール内で指定されているサーバを使用し、管理対象デバイスがその指定されたサーバを利用できない場合は、引き続き最近接サーバのデフォルトルール内の一覧にされている他のサーバを使用します。そのため、ルール内で指定されているサーバからのみコンテンツを取得するには、このチェックボックスをオンにして他のすべてのサーバを除外します。

- 7 [ルールロジック] フィールドを使用して、ルールの式を作成します。

式は基準オプション、演算子、および値から構成されます。たとえば、次のようになります。

DNS Name Filter equal to \*.novell.com

DNS Name Filter は基準オプションで、equal to が演算子で、\*.novell.com が値です。上の例では、最密サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わるデバイスにのみ適用されることになります。

必要に応じて、NOT を使用して式の論理否定を実行できます。たとえば、次のようにします。

NOT DNS Name Filter equal to \*.novell.com

上の例では、最密サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わらないデバイスにのみ適用されることになります。

ルールには複数の式を使用できます。たとえば、次のようにします。

DNS Name Filter equal to provo.novell.com or IP Address equal to 192.168.67.12/24

次の条件を使用できます。

オプション	説明
DNS Name Filter	<p>フィルタ基準を満たす DNS 名に一致します。正確なフィルタを指定するか、クエスチョンマーク (?) やアスタリスク (*) をワイルドカードとして使用して、DNS 名の中の 1 つ以上の文字と照合します。? は、1 文字と一致し、* は 1 文字以上と一致します。例：</p> <p>provo.novell.com:novell.com のトップレベルドメインの provo サブドメインに含まれるすべてのデバイスに一致します。</p> <p>*.novell.com:novell.com のトップドメインの中のすべてのデバイス (サブドメインの中のデバイスもすべて) に一致します。</p> <p>provo?.novell.com:novell.com のトップドメインの provo1 および provo 2 のサブドメインにあるすべてのデバイスに一致します。provo12 のサブドメインにあるデバイスには一致しません。</p>
IP Address /n	<p>指定した CIDR (Classless Inter-Domain Routing) ブロックに含まれる IP アドレスに一致します。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (/n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。/n の数は 0 ～ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。例：</p> <p>192.168.67.12/16:192.168 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p> <p>192.168.67.12/24:192.168.67 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p>

- 8 任意のセクションに一覧にされているサーバを設定するには、次のいずれかを行います。

**8a** (条件付き) 次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のそれぞれのサーバも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
リストにサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的のサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、または認証) で [追加] をクリックします。</li> <li>2. 1 つまたは複数の ZENworks サーバまたはサテライトを参照して選択します。</li> <li>3. [OK] をクリックし、選択したサーバをリストに追加します。</li> </ol>	<p>デフォルトで、ZENworks サーバは、すべての機能 (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) をサポートします。したがって、どのサーバリストでも、すべての ZENworks サーバを選択できます。</p> <p>ただし、サテライトは、特定の役割 (コレクション、コンテンツ、イメージング、および認証) 専用に設定できます。これは次のことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ サテライトを [コレクションサーバ] リストに選択した場合、コレクションの役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。</li> <li>◆ サテライトを [認証サーバ] リストに選択した場合、認証の役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。</li> <li>◆ サテライトを [コンテンツサーバ] リストに選択した場合、コンテンツまたはイメージングの役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。</li> <li>◆ サテライトは設定の役割を実行しません。したがって、[設定サーバ] リストには追加できません。</li> </ul> <p>サテライトの役割は、[環境設定] タブの [サーバの階層] パネルで設定されます。</p>
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、または L4 スイッチのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。</li> <li>3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。</li> </ol>	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、または L4 スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の 2 番目、3 番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コレクションサーバ: サーバ 1、グループ 1、サーバ 3、L4 スイッチ 5</li> <li>◆ コンテンツサーバ: L4 スイッチ 5</li> <li>◆ 設定サーバ: サーバ 3、サーバ 2、グループ 1</li> <li>◆ 認証サーバ: サーバ 1、サーバ 2</li> </ul>

タスク	手順	追加の詳細
リストからサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、削除するサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. <b>[削除]</b> をクリックします。</li> </ol>	

**8b** (条件付き) グループを使用して、サーバへの接続をランダム化します。同じ順序のリストがすべてのデバイスに送られないように、サーバリストはデバイスに送信されるたびにランダム化されます。

たとえば、サーバリストに次の項目が含まれているとします。

- ◆ サーバ 1
- ◆ グループ 1(サーバ 2、サーバ 3、サーバ 4)
- ◆ サーバ 5

あるデバイスは、サーバ 1、サーバ 3、サーバ 2、サーバ 4、サーバ 5 というリストを受け取ります。

別のデバイスは、サーバ 1、サーバ 4、サーバ 3、サーバ 2、サーバ 5 という別のリストを受け取ります。

どちらの場合でもサーバ 1 が最初にリストされ、サーバ 5 が最後にリストされていますが、グループ 1 内のサーバの順序はランダム化されています。

次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のサーバグループも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
サーバグループを作成する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的のサーバリストで、グループに含めるサーバのチェックボックスをオンにして、<b>[グループ] &gt; [選択からグループを作成]</b> の順にクリックします。  または  空のグループを作成する場合は、<b>[グループ] &gt; [空のグループを作成]</b> の順にクリックします。  <b>[グループ] &gt; [グループへの追加]</b> オプションを使用して、後から空のグループにサーバを追加できます。</li> <li>2. グループの名前を指定し、<b>[OK]</b> をクリックしてグループをリストに追加します。</li> <li>3. <b>[適用]</b> をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	

タスク	手順	追加の詳細
サーバをグループに追加する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的のサーバリストで、グループに追加するサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. [グループ] &gt; [グループに追加] の順にクリックします。</li> <li>3. 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 選択したサーバを新しいグループに追加するには、[新規作成] を選択し、グループ名を指定して、[OK] をクリックします。</li> <li>◆ 選択したサーバを既存のグループに追加するには、[既存を選択] フィールドのリストからグループを選択し、[OK] をクリックします。</li> </ul> </li> <li>4. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、移動するサーバ、グループ、または L4 スイッチのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。</li> <li>3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。</li> </ol>	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、または L4 スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の 2 番目、3 番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コレクションサーバ: サーバ 1、グループ 1、サーバ 3、L4 スイッチ 5</li> <li>◆ コンテンツサーバ: L4 スイッチ 5、サーバ 2、サーバ 3、サーバ 1</li> <li>◆ 設定サーバ: サーバ 3、サーバ 2、グループ 1</li> <li>◆ 認証サーバ: グループ 1、L4 スイッチ 5、サーバ 1、サーバ 2</li> </ul>

タスク	手順	追加の詳細
あるリストから別のリストにグループをコピーする	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループのコピー先のサーバリストで、[グループ] &gt; [既存グループのコピー] の順にクリックします。  たとえば、[コレクションサーバ] リストから [コンテンツサーバ] リストにグループをコピーするには、[コンテンツサーバ] リストで [グループ] &gt; [既存グループのコピー] の順にクリックします。</li> <li>2. リストから目的のグループを選択し、[OK] をクリックしてグループをコピーします。</li> <li>3. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	グループのサーバがまだ含まれていないリストにグループをコピーすると、リストにないサーバはグループから削除されます。たとえば、グループ 1 にサーバ 1 とサーバ 2 が含まれ、サーバ 1 を含まないリストにグループ 1 をコピーした場合、サーバ 1 はグループから削除されます。
サーバをグループから削除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、グループを展開してそのサーバを表示します。</li> <li>2. グループから削除するサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>3. [グループ] &gt; [グループから削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。</li> <li>4. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	サーバはサーバリストからは削除されません。グループから削除されるだけです。
グループを削除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、削除するグループのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. [グループ] &gt; [グループを削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。</li> <li>3. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	グループのサーバは削除されません。グループだけが削除されます。

**8c (条件付き)** L4 スイッチの背後でクラスタ化した ZENworks サーバまたはサテライトがある場合は、L4 スイッチを定義して、サーバをその定義に追加できます。これにより、L4 スイッチは、これらのサーバ間でトラフィックを分散し続けられます。

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義を作成する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、L4 スイッチ定義に含めるサーバのチェックボックスをオンにし、[L4 スイッチ] &gt; [選択から L4 スイッチ定義を作成] の順にクリックします。  または 空の L4 スイッチ定義を作成する場合は、[L4 スイッチ] &gt; [空を作成] の順にクリックします。  [L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義に追加] オプションを使用して、後から空の定義にサーバを追加できます。</li> <li>2. L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定し、[OK] をクリックして L4 スイッチをリストに追加します。</li> <li>3. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	
L4 スイッチ定義にサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、L4 スイッチ定義に追加するサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. [L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義に追加] の順にクリックします。</li> <li>3. 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 選択したサーバを新しい L4 スイッチ定義に追加するには、[新規作成] を選択し、L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定して [OK] をクリックします。</li> <li>◆ 選択したサーバを既存の L4 スイッチ定義に追加するには、[既存の選択] フィールドのリストから L4 スイッチ定義を選択し、[OK] をクリックします。</li> </ul> </li> <li>4. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、または L4 スイッチのチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。</li> <li>3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。</li> </ol>	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、または L4 スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の 2 番目、3 番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コレクションサーバ: サーバ 1、グループ 1、サーバ 3、L4 スイッチ 5</li> <li>◆ コンテンツサーバ: L4 スイッチ 5、サーバ 2、サーバ 3、サーバ 1</li> <li>◆ 設定サーバ: サーバ 3、サーバ 2、グループ 1</li> <li>◆ 認証サーバ: グループ 1、L4 スイッチ 5、サーバ 1、サーバ 2</li> </ul>
L4 スイッチ定義からサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、L4 スイッチ定義を展開してそのサーバを表示します。</li> <li>2. L4 スイッチ定義から削除するサーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>3. [L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義から削除] をクリックし、[OK] をクリックします。</li> <li>4. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	サーバはサーバリストからは削除されません。L4 スイッチ定義から削除されるだけです。
L4 スイッチ定義を削除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバリストで、[L4 スイッチ] &gt; [L4 スイッチ定義] の順にクリックし、[OK] をクリックします。</li> <li>2. [適用] をクリックして変更を有効化します。</li> </ol>	L4 スイッチ定義のサーバは削除されません。定義だけが削除されます。

9 終了したら、[OK] をクリックして [最近接サーバルール] リストにルールを追加します。

10 ステップ 2 からステップ 9 を繰り返して追加のルールを作成します。

11 必要に応じて、ルールの作成が終了したら次の操作を行います。

- ◆ [上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、[最近接ルール] リストのルールの順序を変更します。



ルールはリストの中の順番通りに評価されます。評価したい順序でルールを配置する必要があります。

- ルールの設定を変更するには、目的のルールを選択して [編集] をクリックします。

## 5.2.2 ZENworks Configuration 10.2.x/10.3.x デバイス用最近接サーバルールのバックアップ

ZENworks 管理ゾーンに複雑な最近接サーバルールが設定されている場合、これらのルールをバックアップ手順の中でエクスポートできます。

次の `zman` コマンドは、最近接サーバルールのバックアップ時に有効です。

- **location-copy-rules (loccp):** 最近接サーバルールデータをソースデバイスまたはデバイスフォルダから、1 つ以上のコピー先デバイスまたはデバイスフォルダにコピーします。
- **location-export-rules-to-file (loctf):** 最近接サーバルールデータ (XML 形式) をファイルにエクスポートします。XML ファイルを入力として使用して、最近接サーバルールを作成またはルールを付加できます。
- **location-import-rules-from-file (locff):** 最近接サーバルールデータ (XML 形式) をファイルからインポートします。

これらのコマンドの詳細と使用方法は、『ZENworks 11 コマンドラインユーティリティリファレンス』の「場所ルールコマンド」を参照してください。これらのコマンドは、ゾーンを ZENworks 11 に対するベースラインにした後では有効でなくなります。

## 5.3 既知の制限事項

- プライマリサーバを ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x から ZENworks 11 にアップグレードすると、次の機能はサポートされなくなります。
  - ZENworks Adaptive Agent の旧バージョン (version 10.2.x または 10.3.x) がインストールされている管理対象デバイスをサテライトとして昇格する。
  - 既存の 10.2.x サテライトまたは 10.3.x サテライトのサテライト役割と設定を変更する。
- サンドボックスのみのバンドルまたはポリシーがテストユーザに割り当てられ、このユーザが ZENworks 11 管理ゾーンの一部である 10.2.x または 10.3.x の管理対象デバイスにログインする場合、バンドルまたはポリシーのユーザ割り当てはどれもデバイスにフローしません。
- 管理対象デバイスでのバンドルのインストールアクションセットの動作は、バンドル変更管理の導入によって、ZENworks 11 で変更されました。この動作を理解するには、『ZENworks 11 ソフトウェア配布リファレンス』の「Behavior of Install Action Set」を参照してください。

ZENworks 11 インストールアクションセットの動作に準拠するため、ZENworks 11 管理ゾーン内の 10.2.x 管理対象デバイスでインストールアクションセットを実行する場合は、デバイスにパッチを適用する必要があります。パッチの詳細については、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/Download?buildid=CCdDG4BfuJs~\)](http://download.novell.com/Download?buildid=CCdDG4BfuJs~) を参照してください。

